

学位論文内容の要旨

| 学位申請者 | 東海林（市川） 恭子 【ジェンダー学際研究専攻 平成25年度生】 | 要 旨 |
|-------|---|---|
| 論文題目 | 学歴ミスマッチと大卒女性の就業に関する実証分析-日本とオランダの比較を通して- | <p>本論文は現在の仕事にふさわしいと思われる学歴と現実の学歴、あるいは仮に今の仕事に応募するのに必要な学歴と自分の学歴が合致していないことを Overeducation, Undereducation と呼び、日本の労働市場、特に女性就業の課題をオランダと比較することで明らかにすることを試みるものである。この研究分野は欧州で 1980 年代より発展してきたが、日本の先行研究は少ない。市川氏は、学歴ミスマッチ研究の理論および計測方法の先行研究サーベイを行った上で、学歴ミスマッチと大卒者の早期離職の研究、初職が学歴ミスマッチの場合（適合）に、5 年間後にそれが解消（ミスマッチが起こる）される要因の実証研究を行った。使用データは REFLEX 調査（2005-2006 年に大学卒業 5 年後の男女に 20 カ国で行われた調査の個票を利用、日本 2501 サンプル、オランダ 3425 サンプル）である。この結果、学歴ミスマッチが早期離職を引き起こしやすいこと、また日本はオランダ以上に初職の学歴ミスマッチが継続しやすい国であるが、オランダに比べて日本はミスマッチの解消に男女差があること、男性にみれる内部異動によるミスマッチ解消が日本の女性には見られないことなどを見出した。さらに OECD PIAAC 調査（15-65 歳男女、日本 5278 サンプル、オランダ 5170 サンプル）から学歴ミスマッチが賃金に与えるペナルティを計測、日本では、overeducation の賃金ペナルティが存在すること、大卒パート女性の方が大卒フルタイム女性より賃金ペナルティが大きいことを示した。その影響を合算してみると、overeducation による賃金ペナルティは子どもの有無・雇用形態に関わらず存在するが、子どもの有無よりもパートであることが overeducation の賃金ペナルティをより強めていることがわかった。また、子育て期の大卒女性就業率の高いオランダとの国際比較を行い、オランダ女性は子どもの有無、パートによる overeducation の賃金への負の影響は確認されないことから、日本の大卒パート女性の overeducation の賃金ペナルティの存在が日本の大卒女性への負荷であることを示した。</p> |
| 審査委員 | (主査) 教授 永瀬 伸子 | |
| | 准教授 斎藤 悦子 | |
| | 教授 大森 正博 | |
| | 教授 平岡 公一 | |
| | 教授 小峰 隆夫 | |

